旧第２通学区の高校の将来像を考える協議会
第４回　会議録（概要）

日時　令和２年(2020) ３月 16 日 14:00～15:30
場所　須坂市中央公民館

１　開　会
欠席：市村良三委員、藤澤一彦委員、牧良一委員、宮川浩委員、小林功委員

２　あいさつ
三木会長

３　議事
(1) 旧第２通学区の高校の学びのあり方について　意見・提案（案）について
事前に配布した「旧第２通学区の高校の学びのあり方について　意見・提案」（案）について事務局から説明

会長：
これまでに出された意見提言等を事務局でまとめた。全体を通してご意見等がありましたらご発言いただきたい。

委員：
言い回しについて４点、提案させていただきたい。「⑤地域との連携」について、箇条書きの部分、「～のではないか」とされているが、ここは「育つ」「高まる」「出せる」とした方が良い。「効果が期待できる」ではなく「可能性が期待できる」ではないか。
２点目、③（地域の産業界に寄与する総合技術高校）については、『ですます調』の中に「伝統を残したい。」としている部分がある。「伝統を残していくため」のようにしてはどうか。
３点目、①（社会の変化に柔軟に対応する力を育てる普通高校）の２行目からの３行に「必要です。」が二つある。ここは協議会で話し合った結果がとても入っているところ。
「４ 旧第２通学区の特殊性」の③の最後のところ、親の立場から一言付け加えていただきたい。「中学生にとって、より魅力的で特色ある高校を～」としているが、高校の進路決定は保護者にとっても、我が子と一緒に悩む重要な人生の選択です。「中学生とその保護者に」としていただきたいと思います。

会長：
　参考にさせていただきます。ありがとうございました。

委員：
　災害等も含め、どんな状況でも持続可能な学習を担保できる、リモートラーニングのようなシステムを持つ高校の創造が、これからの時代大事になってくるかもしれない。そんなところも模索できたらと思います。

会長：
　昨年中国へ行った生徒が、激励の手紙を書いたところその返事が来ました。中国では、中学生が自宅でＩＴで学習しているそうです。音楽や体育を含め、精神的な指導までやっているそうです。日本のＩＴ教育との差を感じました。

委員：
　これまで申し上げたことが要領よくまとめていただいてある。

委員：
　提言案には異論はございませんが、これを実行していく中で、どのような成果が上がるのか、誰が担保するのかも、考えていっていただければと思います。

委員：
　地域に帰って来ていただけるような、動機付けをしていただけるような、教育の場をぜひお願いしたいと思います。

委員：
　これまでの協議がうまくまとまっていると思います。
　５Ｇなど技術的なものが変わっていくだろうというところは分かりますが、何のために教育はあるのだろうと考えたときに、次の若い人たちが社会を支えていく、社会の一員として育っていくために、高校はどうあるべきなのか。今般のコロナウィルスのようなことがあったとしても、変わることのない精神性を持ち合わせる教育とは何か。中国がＩＴで人と会わなくても教育ができるというなら、むしろ人から教わらなければならないことは必ずあるわけで、そういった教育を目指さなければいけないのではないか。そんなことを思いました。
　「①社会の変化に柔軟に対応する力を育てる普通高校」のところ、「当地域から医療や科学技術、法曹界等～」と書いてあるが、もう一つ大事なこととして、

「教育界」にも人材を輩出できる学校がなければいけないのではないか。
　「デュアルシステム」は、一般の方には分かりにくいと思います。分かりやすい記載があった方が良いのではないでしょうか。

会長：
　先ほどの中国の中学生の作文の中に、先生への感謝の言葉もたくさん入っていました。両方大事だと思いました。

委員：
　ＩＴ授業の導入については、今回学校が休校になったことで、すごく必要性を感じました。

委員：
　特に問題はないと思いますが、「切磋琢磨し」と言う部分と「なじめない」と言う部分、相反する部分があります。社会で生活していくには、「共感性」がとても大事だと思います。ある障がいをお持ちの方は、地域の方に非常に共感していただいて、助けていただいて、今の自分があると話されています。そういう考えを持つような学校をつくっていけば、切磋琢磨して、学校にもなじめるのではないかと思います。

委員：
　最初は生徒が減ってくる中で、予算や教員の確保をどうしようかと言うことであったと思います。「学びのあり方」を読んでいくと、こういう先進的な高校を増やしていこうというように読める。既存の高校にこの内容を組み込んでいくという認識で良いのでしょうか。

会長：
　高校の充実をどう考えるかという観点で提言していきたいと考えています。

委員：
　生徒の数の問題とは別と言うことでしょうか。

会長：
　生徒の数が減ってくると、様々な差し障りが出てくる。生徒の減少を踏まえながら、今後の高校の理想的な姿を求めていくということだと思います。

委員：
　企業、地域、人、文化と言ったようなものを、うまく取り入れていただければと考えています。

会長：
　子どもたちの将来、地域の将来を見据えての観点が大事ではないか。

委員：
　高校再編の問題は、少子化が原点にあると思っています。ある人と話していましたら、長野県へ仕事で来られる方が、単身で来る理由は教育の問題だということです。長野県では都会のような教育が受けられないから単身で来ているということです。ＩＴ等々高度な教育も真剣に考えることで、そういう人たちも、素晴らしい自然環境の中で子育てができるようなことができれば、少子化を防ぐ一つの切り口になるのではないかと思います。

委員：
　実施方針にあるように、これは単なる高校の再編整備計画ではなくて、新たな学びの改革と表裏一体のものであるということで、学びの改革についてうまく入れながら、再編計画についてまとめてあるのでいいと思います。今後はこれをどう進めていくのか。実際に行うのは現場の先生方ですので、改革に取り組む現場の気運の醸成というものが、どのように充実し進められるのか。大いに期待し、見ていきたいと思っています。

委員：
　これまでの協議会の議論をしっかりまとめてあるので特に意見はありませんが、これからの高校のあり方として、地域との連携をますます深めていただける高校を期待しております。

委員：
　今までの協議が網羅されているので、この案で賛成です。
　「様々な進路選択ができる高校」という部分、重きを置いていただいているかと思うが、県教育委員会で高校の中身を考えるとき、地域との関連の部分を大事にしていただきたい。
　高校現場の今後の対応だと思いますが、「探究的な学び」を先生方に進めていただくことが大事になってくると思っています。

委員：

３点、感想を含めて。

「共感性」と言うお話がありました。自信を無くした子どもたちが、自己肯定感を持って学びに浸っていけるにはどうしたらいいのだろうかということを強く感じました。④（多様な背景を持った生徒のニーズに応える定時制高校の充実）を大事にしたいと思います。

２つ目は、②（様々な進路選択ができる総合学科のメリットを活かす）の「中学校卒業の段階で自分の進路を明確に描くことは、なかなか難しい」のところ。進路選択をより深く考えるためのキャリア教育だとすれば、これまで義務教育の段階で進路選択に対する学習は十分だったのだろうか。検証して、子どもの心の準備に力を入れていかないといけない。

３点目、「特色のある普通科」は具体的にどういうことなのか。例えば、今行われている信州学の成果は上がってきているのだろうか。「地域と密接にかかわる高校」となった時に、地域をどう学ぶのか、地域も学校も深く考えていかなければならないと思いました。

事務局：

「特色のある普通科」は、既定の枠を少し広げて、普通科と専門科の枠、仕切りを広げて、柔軟な発想ができればと考えています。

委員：

予測不可能なこれからの時代を切り拓き、たくましく生きていく、自立した子どもたちを育てていかなければいけないと思っています。そのためには、学びに向かう姿勢、自分から学びを求めていく子を育てなければいけない。

そのためにも、教員がしっかり研修しなければいけない、学び続けなければいけないと思っています。子どもたちの将来をしっかりと見据えて、力を最大限伸ばしていければと思っています。

委員：

まとめていただいたものを見て、高校にいろいろな期待があると感じている。「探究的な学び」で学びを変えていくところ、言葉だけでなく、実行していくことが大事になってくる。

中学生が、「こういうことをしたいからこの学校に進みたい」となるように、各高校が魅力づくりをしていかなければいけない。

委員：

地域の皆さんの期待がコンパクトにまとめられた提案書になっていると思います。この地域は、普通高校、総合学科、総合技術高校といった基盤があるので、これをしっかり生かす中で、地域の皆さんの期待が実現されるようにしていただきたいと思っています。

教育の質を高めていく上では、子どもたちに接する、先生方の充実がとても重要になると思います。

また、教育予算の充実も盛り込まれることになっているが、限られた予算をどう配分していくのかという中で、教員の充実であるとか、教育の質を高めるといったことがしっかりできるようにして頂きたいと思います。

委員：

この提案は、具体的なイメージが湧きやすい提案になっていると思います。

委員：

バランスよくまとまっていると思います。特に、地域との連携の部分。高校生には地域の担い手になってもらいたいと思っている。担い手になることで自信を持ち、社会の一員としての自覚を持ち、それが地域への愛着になる。

（５　子どもたちの夢をかなえる学びのあり方について）前文の部分、「今後もこのような学習環境を維持することを強く要望いたします」とあるが、維持というよりも、さらに充実・強化するという言い方でもいいのではないか。

委員：

バランスよくまとめていただいたと思っている。先ほど地域の担い手の話があったが、私もそこが一番大事かと思っている。

委員：

これからの高校に求められる機能は大きく変わるのだろうと思っている。人口が減少して、社会の中身が変容する。変容してきたときに、この地域における教育に対するニーズが変わってくる。社会人教育など、「学び直す」というニーズが高校に求められてくるのではないかと思っている。

1995 年から 2015 年までの間に日本の人口は 1000 万人減ったが、その間に労働力は 41 万人しか減っていない。この 20 年間に、女性の社会参画がおきた。次の 20 年、人口は 1200 万人減る。その時私たちは、もっと学んでもっと一人が多能化するとか、そういったことが起きてくるのではないか。

そういった時にその学び直しは、高校教育ではないか。大学はないとなれば、高校と地域がしっかり手を結んで、地域を支えていくといったような構図が、こ

れから強く出てくるのではないか。
　今回、私たちが作り上げてきた高校の機能、生徒が取り組んできた特色ある高校のありようについて、さらに充実強化しようという形で意見提案ができたことは非常に良かったと思います。この取組みについては、行政が責任を持って、真剣に取り組む重要事項だと思っています。
　「地方創成は教育から」という雑誌を見ました。教育がしっかりしていないと地方創成はできないということです。一言申し添えさせていただきました。

委員：
　職業科に関係するところは非常に踏み込んだ形で、地域密着型が出ていると思います。一方、この地域、特に須坂については、流入・流出が多いというところで、どういう普通高校を望むのかという点はとても難しい。この地域が望む普通高校はこの形でいいのだろうか、少し見えにくい。
　大学の側から言わせていただくと、受験勉強一辺倒できたのではなくて、少し余裕のある学生が欲しい。物事を考えられる高校生、大学に入って伸びる高校生が欲しい。無理して受験勉強に励んでいる高校生よりは、地元で余裕を持って勉強している学生の方が、そういった観点が出てくるのではないかと思います。
　希望と感想です。

会長：
　ほかに意見等がなければ、この案をもとに、本日いただいた意見を踏まえて、事務局で詰めさせていただきたいと思います。

(2) パブリックコメントの実施について
　パブリックコメント概要資料（資料 1）について事務局から説明。高校生の意見を聞く機会を設けるため、それぞれの高校に直接お願いして、意見募集に協力いただく旨を説明し、了承。

４　その他
　パブリックコメント後、意見に対する考え方や提言へどう反映するかについて協議いただく第５回協議会を、５月上旬から中旬に予定したいと考えている。その会議で、県教育委員会への意見・提言をお認めいただければ、その時点で協議会は終了となる。後日日程調整をさせていただくので、ご協力をお願いしたい。